

2013 年 9 月 1 日発行 第 133 号

| 目 次                            |                           |
|--------------------------------|---------------------------|
| P 1 巻頭言 永野 博 副会長               | P 8 MUA サロン 塩瀬正明氏         |
| P2-5 講演会「変化するアジア現代アートの現況」南條史生氏 | P 9 「ブータンの家庭料理」 レキ・チョデンさん |
| P 6-7 ようこそ、都立三田高校ユネスコ委員会の皆さん   | P10 事務局便り／編集後記            |

## 心に刻む言葉

港ユネスコ協会副会長 永野 博



座右の銘とは？ と問われると困惑する。では、何もないかというと、演説の中に、とても私の心に残る一節がある。

それは、私の在西ドイツ大使館在任中のことであったが、同国のヴァイツゼッカー大統領が、敗戦の 40 周年（1985 年 5 月 8 日）の際に連邦議会で行った「荒れ野の 40 年」といわれる演説にある次の文言だ。

「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる。」（原語では、Wer vor der Vergangenheit die Augen verschliesst, der wird am Ende blind für die Gegenwart.）というものである。

そもそもの 40 周年の式典については、なぜ中途半端な 40 年を取り上げるのか、50 周年を大きく行うべきではないかなど、その実施に疑問符がついた際に、ヴァイツゼッカー大統領は、旧約聖書での物語を取り上げ、民族にとっての 40 年の意味を説いている。それは、イスラエルの民が約束の地に入る前の 40 年間、荒野をさまよったのは、責任ある世代の完全な交替には 40 年が必要だったとされたこと、また、人から助けってもらった記憶は 40 年しか心に刻むことができず、それが途切れるやいなや、平和が終わりを告げた、というものである。

大統領は、プロテスタント教会会議議長も務めたことから、心に刻み続けるとは、神の行いを体験していくことであり、それこそが救いと和解への信仰の源であり、それを忘れることは、和解からも遠ざかる、と考えている。この言葉の前後では、「罪の有無や年齢にかかわらず、みな、過去を受け入れねばなりません。すべての人が、過去の出来事に伴い生じてくることに遭遇し、かつ、責任を取らねばなりません。このことを心に刻みつつける重大性を認識しつつけることができなければ、同じ過ちを繰り返すことになるでしょう。」と述べている。

また、演説の最後では、「若い人々は過去に起きたことには責任はありません。しかし、そこから生じてきたことに対しては責任があります。年長者の責任は、若者の夢の実現にではなく、かれらの誠実性の実現に対して存在します。それは、若い人々が、心に刻むということが、どれほどに大切なことかということを理解できるよう助けなければいけないということです。」と締めくくっている。

ここまできて改めて考えてみると、このヴァイツゼッカー大統領の思想と、ユネスコ憲章の「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」には著しい共通性のあることがわかる。私がユネスコ活動に惹かれるのも、こんなところに理由があるのかもしれない。

## 疾走するアジア — 変化するアジアの現代アートの現況 —

講師：森美術館館長 南條 史生氏

日時：2013年7月2日（午後6時30分～8時30分）

会場：港区立麻布区民センターホール（港区六本木）

今回の講演会では、講師の幅広い知見とアートという専門領域を背景に、今まで余り注目されなかったアジア、中東等での現代アートの新しい躍動について、具体的事例を挙げてご紹介いただきました。

また、こうした現象と並行して、高騰する中国美術市場の意味を問い、経済とアートの関係について、そして、将来のアジア・日本との関係についても言及されました。

### 講師 プロフィール



1949年生まれ。慶応義塾大学経済学部、文学部哲学科美術史学専攻卒業。

1978～1986年 国際交流基金、2002年 森美術館副館長、2006年から現職

国際的な展覧会のアートディレクターおよび審査員を歴任。

十和田市現代美術館設立計画の監修の他、パブリックアートのディレクション多数  
経済産業省、外務省、文化庁等での有識者懇談会メンバー、国際委美術館会議及び  
国際美術家連盟会員、慶応義塾開学等の講師をつとめる。

著書：「疾走するアジア—現代アートの今をみる—」（2011年、美術年鑑社）

「アートを生きる」（2012年、角川書店）など。

### 講師紹介：松本副会長

一言で表現させて頂くと「空飛ぶキュレーター」が南條氏に相応しい。300人以上の各分野の方々と人間関係を構築・維持されている。今の日本で身近にアートを楽しんでもらいたいという美学を実践されている。

### 講演内容

#### 近代から後近代へ：

近代主義とはヨーロッパから始まったユダヤ・キリスト教的世界観であり、いくつかの普遍的価値についての信念から成り立っていた。

たとえば歴史は進歩するという時間概念もその一つであり、美術の世界でもそれが妥当すると考えられてきて、それが美術の「前衛」という言葉を生んだ。また美術の世界で、どこでも通用する普遍的価値という考えは、最終的に色と形の問題に還元された。色と形の問題だけなら、どの国の誰にでも理解でき、議論に参入できる。これは美術の普遍主義といえる。

#### 後近代主義：

戦後は植民地支配をはねのけてアジア、アフリカ、南米が台頭して、それぞれの文化が同じように重要なものであるという文化多極主義の時代に移っていった。

戦前は、ヨーロッパの文化（ロンドン、パリが中心と思われていた）が世界の中心だとおもわれていたが、地域文化がそれぞれの独自性と重要性を主張する時代になった。思想家ドゥルーズとデリダはこうした世界の現状をリゾーム（根茎）と呼んで、地球を覆うのはヒエラルキーのないネットワークのようなものだと言及した。根茎のところどころに出来る芋が大都市である。かつてはNY・ロンドン、といった欧米の大都市が重要だったが、今ではムンバイ、上海、東京も同じように重要で、そこに優劣はないという世界観に変わった。

異なった歴史、文化、社会からなる大都市が情報と交通網により、網の目状に繋がっているのが現代である。

## 世界の構造の変化

ベルリンの壁の崩壊（1989 年）  
ソヴィエト連邦の崩壊（1991 年）  
アジアの台頭

フランシス・フクヤマは上記の事件によって、資本主義と共産主義というイデオロギーの対立が終わり、その結果、「歴史が終わる」といった。なぜなら歴史は異なった世界観の闘争によって、前に進むからであると。対立が消えて国家という単位の重要性が薄れ、都市間競争の時代に入ったと思われる。

ビエンナーレ（1895 年）や国際音楽祭は、都市が文化を用いて都市セールスをする際のツールである。そこで国際的な展覧会の競争が始まった。

また文化は、深く見れば細分化して自己主張し、国家よりも小さな単位に向かう方向を示している。（地域文化は国境よりも小さい場合が多い）一方経済は、むしろ国家より大きな地域を求め、巨大化（たとえば EU）の方向へ向かう。

文化的イベントとして都市を基盤に、2 年に 1 回行われるビエンナーレは国際的展覧会として 1990 年以降には世界中に 300 以上に増え、アジアでの創始も多い。

アジアの経済的台頭が現代美術の発展を呼応し、助長し、発展させている。また多くの場合、伝統と近代主義の確執が論じられている。

## 画像・例

\* シンガポールの仏教寺院で、台湾の作家がハスの葉に漢字で文字を書きアートとした。こうした作品は漢字が読めない人にはわからない作品ということになる。しかし論点は逆転し、漢字が分からないというなら、それを勉強したらどうですか、とアーティストが鑑賞者に言う時代になった。



台湾の女性アーティストが蓮の葉に漢字を書いて作品とした（ツァイ・チャーウエイ）

\* シンガポールのコロニアルスタイルの建築はシンガポールとヨーロッパそれぞれのスタイルを取り入れた折衷文化である。このような近代主義文化と地域文化の折衷様式の例は日本にも沢山有る。

\* 台湾の国立美術館で見た台湾近代絵画は日本的要素と洋画が入り混じっている。もともと日本から学んだアーティストが多くいたためだろう。また、日本でも同様の折衷現象があった。

\* 中国で最も成功している画家は比較的若くても、一点が 1~5 億円に達する。また、スケールが大きく、ギャラリーに実物の電車を設置した作品を見た。内部では各座席の窓に、中国の歴史的なニュース映像が白黒で流されていた。



北京で最初に発展した工場のギャラリー街、  
「798 文化地区」の入り口

\* 一方、言論統制はまだ続いており、アイ・ウェイウェイという作家は、ブログでしばしば政府批判したため拘留された。彼は 2009 年森美術館で個展を開催した。現在は超人気作家であるが、政府から自宅軟禁されているので、本人は国外に出られない。

\* 三影堂撮影センターは若い写真家の夫婦がオーナーで、奥さんは日本人である。多くの写真作品を所蔵している。

\*これはベルギー人のコレクターが北京で美術館を作り、オープニングを行っている様子。欧米の美術館の館長が多数集まった。日本では、殆ど生じない現象。

\*また上海の現代美術作家ジャン・ファンは小川を含む工場 8 棟くらいが全部個人のスタジオと化していて、大変なスケールである。

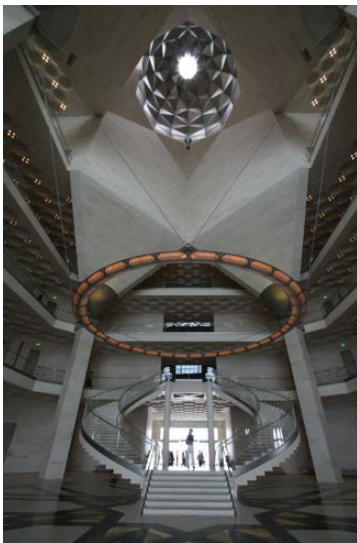
\*現在中国では税金等の問題があり、売買の中心はやはり香港に移った。香港のアートフェアはアジアで群を抜く。数百のギャラリーが出展し、沢山の作品が即売される。アートフェアには世界中から数千人の観客、コレクターが集まるので、それをめがけギャラリーも、作家も、色々なプロモーション、マーケティングを試みている。



上海にあるジャン・ファンのスタジオ。  
隣接して巨大な建物が 7,8 棟ならんでいる。

\*NY のアジア・ソサエティー財団が香港のお金を集めようと試みて、パーティーを行った。ガラディナーは 1 テーブル 150 万円だが、ギャラリーがテーブル毎権利を買い取り、そこに自分の常連の客を招待して食事している。このやり方は日本で成功するだろうか。食事中に壁にオークションの様子が映像で映される。次々価格が上がるが、食事の参加者全員に誰が幾らで何を買おうとしているかが知られる構造で盛り上げていた。一種のパフォーマンス作品となる。

\*インドネシアは人口 3 億人で平均年齢は 29 歳。これからの巨大マーケットの一つである。人種も多数で、華僑、イスラム、仏教徒、ヒンドゥーの人々が混在している。



インドネシアのコレクター  
ドクター・ウイの私設美術館の内部

\*これはジョクジャカルタのファブラボ。デジタルアートを一般の人に広めようとしている。3D コンピューター等の最新機材を利用し、朝から 30 名位のアーティストが新しいアート造りに取り組んでいる。インドネシアでは、公的美術館が殆ど何もしていない。

\*これはドクター・ウイが個人で収集した 1000 点くらいの現代アートの作品を展示する美術館。ジョクジャカルタから 1 時間位の郊外にある。

\*インドのムンバイの作家が、ムンバイのスラム街を紙の模型で作品にしたが、この作品がムンバイの高級ホテル・グランド・ハイアットに展示されているのは皮肉だろうか。



ドーハ（カタール）に出来たイスラム美術館のロビー。  
（建築は I. M. ペイの設計）

\*中近東の現代美術 1983 年にハッサン・シャリフがロンドンから帰国して、現代美術を取り入れ、大きな影響を及ぼした。若い女性アーティストも少なくないが、デザインの世界からアートに入る例が多かった。アブダビに世界の著名な建築家に依頼して 4 つの素晴らしい美術館が建築予定である。カタール、バーレン、なども美術館の発展が目覚ましい。

\*エジプトのカイロのビエンナーレではキッチンで料理を作り、貧しい人に提供するコンセプトをアートとし、観客と一体化した作品もある。

### アジアのこれからの問題点

|          |                       |
|----------|-----------------------|
| 資本主義の問題  | 資本主義は果たして妥当なシステムか     |
| 都市化の問題   | 20年後には世界の人口の6割が大都市に住む |
| 人口の増加の問題 | 人口増加に伴って様々な問題が生じる     |
| 環境変化の問題  | 大都市のスラム化やエネルギー問題      |
| 文化の問題    | 美学がライフスタイルを決定する       |

\*日本の場合は現代美術の先進国でありながら、市場がきわめて脆弱である。近隣諸国のコレクターにより支えられている。(インドネシア、台湾、オーストラリア)

\*これからアジアではもっと美術館が出来てくるだろう。日本はそれを支援してはどうだろうか。日本は「愛」をもって、アジアとともに発展するという理想を掲げてはどうか？

### 今何が可能か？

森美術館は10周年を迎え「愛 LOVE」をテーマに美術展を開催中である。今世界は紛争・災害・経済問題などに満ちているので、「愛」を唱えることは重要な提言になると思う。それはコラボレーション、シェアなどの概念に通じるからだ。それは一緒に未来を作ろうというメッセージになる。

### 《質問コーナー》

**Q1:** 中国がデザインを模造している点に関して？

**A:** かつての日本も同じ道を辿ってきたので、単純に批判だけするのは疑問。米国は著作権を長期化しようとしている(例 ディズニーの著作権を守るためと言われる)がこれはどうか？ ビジネスでは、コピーしてはいけないが、また人の作品を真似ることから、新しい発展もあるので、創造的インスピレーションとの線引きを厳密にするのは難しい。

**Q2:** 企業美術館について

**A:** 公と民間の違いは利益の追求の有無でといわれるが、果たして、簡単に定義できるだろうか。アメリカの美術館は殆どが、民間である。一方ヨーロッパでは、国や地域が運営している。定義も善悪も、国や社会により事情が異なる。結局その理念により美術館の価値が決まるのではないか。

**Q3:** 現代のアートとは

**A:** アートは今や絵画や彫刻ばかりでなくコンセプトであり、柔軟で自由な思考訓練の基盤である。それは教育の再構築にもつながる。常に他人と同じでなく、異なることがアートには貴重、価値である。このような自由で個人の考えが認められるジャンルは滅多にない。

**Q4:** 日本のアートの市場の問題

**A:** 外国の美術愛好家によく知ってもらうことが大切だ。しかし作品があまり迎合するのもしよくない。台湾人は日本人の感性とよく似ているので理解してもらえと思う。

### 《感想》

今回は現代アートにふさわしく多数の若者が熱心に聴いてくださった。

南條氏の現代アートに対する情熱とキュレーターとして各国の作家との交流の深さに感銘した。

アートに目覚める原点は教育にあるといわれるご意見に納得した。そして日本でも若手アーティストの市場がさらに増えることに期待したい。

末筆ながら六本木美術館の素晴らしいアート展のますますのご成功をお祈りいたします。

(国際学術文化委員会担当常任理事 奥村和子)

## ようこそ、三田高等学校・ユネスコ委員会の皆さん

2013 年 6 月 18 日(火)と 20 日(木)来室されました。

昨年に引き続き、30 数名の都立三田高校ユネスコ委員会の 1 年生と 2 年生の生徒さんが、2 班に分かれて、藤村由夏先生と永峰寿子先生とご一緒に、港ユネスコ協会・事務局に来室されました。

高校生の皆さんとご一緒に「ユネスコ」について話し合う機会となり、とても意義深い時間になりました。

高井光子会長がまず 30 分間、ユネスコが生まれた経緯やユネスコの基本精神、平和、そしてユネスコ活動についてお話をさせていただき、後半の 30 分は、ご一緒に話し合いの時間といたしました。



後日、生徒さんから感想文を寄せて下さいました。どの感想文も、若々しい素晴らしい感性と理性に満ちています。読ませていただきながら、若い力を頼もしく感じ、これからの世界に希望を与えていただきました。

ご承諾を得て、原文のまま、ご紹介させていただきます。

### \* 委員長 2年 山本ノエルさん

この度は、貴重なお話を聞かせて下さり、ありがとうございました。

私は、今年始めてユネスコ委員になり、委員長をやらせていただいています。何もかもが初めてなので、ユネスコ委員会が学校で何をすべきなのか、全然わかりませんでした。しかし、委員長になって3ヶ月が過ぎ、去年から引き続きユネスコ委員になった子たちや、幹部の子たちに支えられ、少しずつですが、わかってきたような気がします。



今回の港ユネスコ協会訪問は、ユネスコのことをよく知る良い機会になりました。“ユネスコ”という機関があることは知っていても、何をしているのかまでは知らなかったのが、この機会に知ることができて本当によかったです。

その時に、これからユネスコ委員でやりたいことや、できることを話し合った結果、募金活動ができるのでは、という意見や、ユネスコ委員会やユネスコのことをもっと学校内に広めたいという意見が出ました。できることから少しずつ、行動していきたいと思います。何か良いアイデアがありましたら、気軽にアドバイスをお願いします。私たちはこれからもユネスコ委員として頑張って活動していきたいと思います。

### \* 副委員長 1年 加藤彩さん

「貧困のサイクルは断ち切れない」この言葉にたくさんのことを考えさせられました。

貧困のサイクルとは教育を受けられないことから始まり、読み書きができないことになり、安定した職業につけず、収入が少なくなってしまうこと。

そして、世界で読み書きができない大人が 7 億 9600 万人もいるということに驚きました。それは人口が約 1 億人の日本人の約 8 倍の数である。

このサイクルを断ち切るために教育を受けられるような環境作りが必要です。私は、ユネスコ委員になったのに UNESCO の基本概念を知りませんでした。

今回このような貴重なお話を理解しやすく聞かせて頂きありがとうございました。

これからは、ユネスコ委員として UNESCO に貢献すると共に個人としても自ら進んで UNESCO に関わって行きたいと思いました。

＊ 会計 2年 門脇美咲さん

今回は私たちユネスコ委員に貴重なお話をしてくださり、ありがとうございました。

私が今回のお話を伺って一番心に残った話は「平和」をどうとらえればよいか？というお話です。今まで私の中の「平和」は戦争や紛争の無い世界というイメージでした。しかし今回のお話から「平和」とは「多様な生き方を認め、平等に共に生きることができる世界であること」という新しいイメージを持つことができました。

私たちの力でこの世の中のすべての人々を「平和」にするのは難しいと思いますが、今回のお話を伺って、世界の多くの人々が尊厳や人権が損なわれているという状況を、私達が知るだけでも平和へとつながっていくのではないか、と思いました。



そして私はユネスコ委員として「平和」をどうとらえればよいか、という新しく学んだことを他の生徒にも伝えていきたいと思います。

今回は素晴らしいお話を本当にありがとうございました。

＊ 会計 2年 塩田智子さん

先日は、私たち三田高校ユネスコ委員のために、貴重なお話をしてくださり、本当にありがとうございました。

私は今回で二度目となる訪問でしたが、やはり多くの事について考えさせられた、とても良い機会でした。

特に印象的だったのが、「平和」のとらえ方についてです。平和とは、戦争がない事だと考えがちですが、戦争がなくても貧困や人権抑圧、公害など世界の多くに人々の尊厳や基本的人権が損なわれていく状況があります。そうした中で、「心の中に平和のとりでを築く」ということが大切だと教わりました。

私たちユネスコ委員の活動は小さなものですが、少しでも多くの方々に貢献できるよう、精一杯取り組んでいきます。

先日は本当に、忙しい中どうもありがとうございました。



私の父は 1943 年召集令状を受け、6 歳・3 歳・1 歳の子どもを残して旧満州に送られ、敗戦後旧ソ連抑留中に没しました。故郷・和歌山市は半分以上が 1945 年 7 月、B29 からの焼夷弾によって焼け野原と化しました。

世界中で、戦争の犠牲になった人、家族は数えきれません。戦争という狂気が決して繰り返されないように。若い方がたに、国を越えて人々との相互理解につとめ、平和を大切にする社会、そして平和な世界が実現するように努力を続けていただきたいと願っています。

お会いできる機会を与えていただいたことに感謝いたします。

(会長 高井光子)



## 「いろんな面で違う、韓国人と日本人」

会場:MUA(港ユネスコ協会)事務局

日時 :2013 年 7 月 19 日(金) 18:30~18:30

話者 :塩瀬正明さん(会員)

MUA サロンは、港区補助事業の「国際理解講演会」とは異なり、日ごろ顔をあわせる機会が少ない会員仲間が「おにぎり」をいただきながら、親睦を深めつつ、「お互いが学び合う」集いです。

今回の参加者は 18 人で、事務局のテーブルを囲んで、ぎっしりと肩を並べて並んで座りました。

このところ、テレビ・新聞等のメディアで韓国と日本との関係が話題にならない日はありません。韓国制作のテレビ番組は日々放送されて人気を得、韓国料理は日常的に楽しんでいるとはいえ、両国の人々どうしの直のお付き合いはあまりなく、実際の暮らしや、考え方を相互によく知っているとは言えないのではないのでしょうか。

そこで今回の MUA サロンでは、韓国という国や韓国の人々についてもっと広く、よく知る機会を持ちたいということになりました。講師役は 2 年前に当会に入会された塩瀬さんをお願いしました。

塩瀬さんは、大手会社から派遣されて、2003 年から 2009 年までの間、韓国に駐在され、韓国の方々と一緒に仕事をされ、日々濃いお付き合いをされたご経験をお持ちです。ご自身の目と耳で見聞きし、感じられた、韓国の人々の暮らしなど幅広い面にわたってお話し下さいました。

以下、筆者の印象に残っていることを並べさせていただきます。

\*面積は九州と同じくらいで、人口は 5000 万人、一人当たりの GDP は、約 200 万円。

\*戸籍が発達している。各家の家系図は 500 年ぐらい遡ることが出来る。(全員が持っている！)

\*苗字は 287 種類しかなく、金・李・朴 など 7 つぐらいで 50%を占める。だから、苗字だけで呼んでも通じないので、フルネームか、下のネームで呼ぶことが必要である。また、出身地をつけて呼ぶこともある。

\*葬儀は何をさしおいても優先する。寺に墓はなく、丘を墓にする。昨今では場所が不足してきた。

\*国民皆番号制度になっている。何をしたかは、調べればわかるようになっている。

\*カードが大変普及している。ちょっとした買い物でも、現金よりカードを使う。

\*学校の先生のステイタスが大変に高い。高校の教科書は国定なので一種類であり、書店で買うことが出来る。

\*民族の歴史は学校で徹底して教えられる。

反面、日本人は一般的に歴史(特に近現代史)を知らな過ぎる。この両国のギャップが大きい。

\*学校で教えられている、日本の植民地時代に日本から奪われたもの、プライドを踏みにじられたものとしては、次の 7 つがある。 1. 主権 2. 王国 3. 人命 4. 国語 5. 姓名(創氏改名) 6. 土地 7. 資源

\*選挙の投票率は 60%を超える。それは、平日に選挙は行うからともいえよう。

\*韓国人の気質(キーワード)は次の 4 つ。私どもには、このところがちょっとわかりにくかった。

1. 格差社会——両班(やんばん)「武班・文班」
2. 中央集権——多様化していない(何処でも同じ)
3. 恨み(ハン)であって、怨(ハン)ではない
4. 血族の結集(「本貫ホンガン」)

### 《感想》

近いお隣どうしなのに、なんだか遠い国と感じるところがありました。時が時なので、重いテーマではないかと思っていましたが、話者のソフトな説明に引き込まれ、お話を伺い、親近感が増しました。

何よりも、両国民がもっと相互理解を深める努力をする必要があると強く感じました。

その意味でも、質疑応答の時間がもっと有ればと思いました。

大勢様にご参加いただき、ありがとうございました。次回をお楽しみに！

(会員開発委員会委員長 成瀬成子)

## フータンの家庭料理

日時：2013年7月20日（土）12時～15時30分

会場：港区立男女平等参画センター（リーブラ）4F 料理室



### 講師：レキ・チョデンさん

横浜国立大学大学院修士留学生

### アシスタント：渡辺千衣子さん

日本ブータン友好協会事務局長

今回講師にお迎えしたレキ・チョデンさんは、日本政府奨学金を得て2011年4月に来日され、大学院に留学中の工学博士。当日は5歳になる娘さんのイギンちゃんを連れて来て下さいました。母としての柔らかさを持つ半面、勉強をするためにあの震災直後の日本にやってくるという少し驚きの強さを感じさせてくれる女性でした。アシスタントをしてくださった渡辺さんは、日本ブータン友好協会の事務局長。ブータンへの愛が随所に垣間見え、準備の段階から当日の調理補助や通訳まで大変ご尽力いただきました。

ブータンは農業従事者が90%を占める国で、食生活は米中心とのこと。山間の地形で育つ唐辛子は大事な野菜で、色、形、味、辛さの違う豊富な種類があります。唐辛子＝野菜であり、塩以外の胡椒などの調味料は用いない。また、塩は採れないので輸入とのこと。現地では、まな板を使わず、日本での豆腐のように野菜を切るようです。また、今回の料理は、どれも大変美味しくいただきましたが、本国のブータン料理では、今回の10倍位は辛いそうです。

メニューは以下のとおりです。

★ パクシャ・パー（豚肉と大根の煮込み）

ブータンでは豚肉が大変美味しいそうです。この料理は塩だけ入れたお湯で豚肉を煮込み、途中から野菜を入れて水気がなくなるまで煮込みます。

★ ノシャ・バー（牛肉と野菜の煮込み）

インゲンを縦に裂いて調理したのは初めてでした。作り方も材料もパクシャ・パーと似ているのに、違った一品になります。

★ ケワ・ダツィ（じゃがいもとチーズの煮込み）

チーズが入るので、他の2品の煮込み料理とは趣が異なり、子供にも人気のメニューのようでした。

★ ホゲ（ブータン風サラダ）

山椒が効いた、チーズ、コリアンダーの入ったサラダ。さっぱりと美味しい。

☆ これらをワンプレートに、ご飯とともに盛りつけ、手でいただくのがブータン流です。



ブータン音楽が流れる中、食事をいただき、イギンちゃんがブータンの公用語のゾンカ語、英語、日本語で歌い、参加された若いご夫婦が、講師持参の民俗衣装姿に変身。ブータンの方は自分1人で着られるそうですが、なかなか難しそうで2人がかりで着せてもらっていました。ブータンと言う国を大変身近に感じた楽しい時間でした。（世界の料理委員会 金澤由里）

# 事務局便り

【ようこそ 新入会員】 個人会員：永倉知子さん

外国籍会員：RIDIYAGANA GAMAGE PUSHPADEWA さん（スリランカ）

【今後の行事予定】（詳細は別途、チラシやホームページでご案内いたします）

☆9月3日（火）18:30～20:30 第2回国際理解講演会 テーマ：東アジアの緊張と日本外交の課題

講師：春名 幹男氏（ジャーナリスト）会場：港区立生涯学習センター305号室

☆英会話中級クラス・毎火曜日、18:30～20:30、コース全14回、9月3日～12月24日（麻布）

☆英会話初級クラス・毎水曜日、18:30～20:30、コース前14回、9月4日～12月11日（田町）

講師は初級クラス、中級クラスともマーク・マードック先生

☆10月5日（土）13:00～16:30 「UNESCO ユース・フォーラム in みなと 2013」

①留学生による母国紹介（6か国）、②留学生10名によるパネルトーク「日本と私・そして未来」、

③東日本大震災の復興を願って皆で歌いましょう。会場：リーブラ 5Fホール（田町）

☆10月12日（土）～13日（日） 港区民まつり 会場：芝公園

☆11月23日（土）12:00～15:30 クリスマス料理（詳細未定）会場：リーブラ（田町）

☆11月28日（木）18:30～20:30 シンポジウム「日本人の幸福度」（仮題）会場：リーブラホール（田町）

【ご寄付、ご寄贈品などの、ご協力ありがとうございました】

(A) 日本ユネスコ協会連盟の東日本大震災子ども支援募金（就学支援奨学金として）

☆7月2日（火）国際理解講演会会場での募金 4,191円 日ユ協連へ送金済み。

(B) 港ユネスコ協会・平和基金へのご寄付 ☆港区テニス連盟様から 60,000円

(C) ミンダナオ子ども図書館への寄贈品 こども・婦人・紳士用、Tシャツ、ズボン、運動靴など。

☆寄贈者（敬称略）：秋山雅代、今村孝子、葛西章江、鈴木明美、高井光子、富田晴雄、永井美智子

【ご協力をお願い】

\*日ユ協連・東日本大震災子ども支援寄付 常時受け付け中です。

\*ミンダナオ子ども図書館への寄贈品（衣料品など：新品・中古品[洗濯済] 除・毛織物）。事務局まで。

港ユネスコ協会事務局（火～金 10:30～17:30）

〒105-0004 東京都港区新橋 3-16-3 TEL 03(3434)2300 TEL・FAX 03(3434)2233

Eメール：info@minatounesco.jp

ウェブサイト：<http://minato-unesco.jp>

■編集後記■ ◆盛夏である。楽しい夏休み、甲子園での熱闘と言った明るく前向きのイメージと共に、終戦と言う過去の、然し、忘れてならない歴史も蘇る。今夏の戦没者慰霊祭での日本のリーダーの挨拶が、またぞろ近隣諸国での物議を醸している。なぜこのようなことが幾度も繰り返されるのか。これからも同じことが際限なく続けられるのであろうか。明るい夏の唯一暗くなる点である。（須田康司） ◆最近、「コン・ティキ」（いかだ船の名）という題名で、ノルウェーの人類学者を主人公とする映画を観て大変爽やかな気分になった。新聞の文化欄にその学者の子息が寄せたエッセイに関心をもっていたところ、先に観た友人からも薦められたので出かけた次第。ポリネシア人の祖先は南米から海を越えて渡来した古代人に違いないとの自説を証明するため、起業家のように必死でスポンサーを見つけ、資金をかき集め、仲間と命がけの古代式航海に乗り出すというストーリー。人間の連帯感や心の動きが伝わってくる作品で、見ごたえがあった。（棚橋征一） ◆最近、スマホバカと呼ぶらしい妖怪が、都心を徘徊している。列の流れが遅いとか、前の人の歩みが、若いのにずいぶんゆっくりだなと思うと、一生懸命、メールを打つなり、HPを読みながら歩いている。「狭い日本、そんなに急いでどこへ行く」のアンチテーゼとして、評価定着するか、KYの新現象として嘲られるか？ 幼児期から、ゲーム機をはじめ、様々なIT機器を使っている世代は、心身にどんな影響を受けるのかな？少なくとも、眼鏡店や眼科医には、売上増加をもたらし、経済成長には貢献する。万歳！？（富田晴雄） ◆11月開催のシンポジウムのテーマに「幸福」を取り上げるようになった。カール・ブッセの詩「山のあなた」は、上田敏の名訳【海潮音・明治38年刊】によって、ドイツでよりも日本で親しまれていると聞いた。私も50年数年前に学校で習い、「幸せ」とは何なのかわからないまま、よく口ずさんでいた。《山のあなたの空遠く「幸」住むと人の言ふ。噫、われひとと尋め行きて、涙さしぐみ、帰りきぬ。山のあなたに なほ 遠く「幸」住むと人の言ふ。》 2013年版OECD幸福度ランキングによると、日本の幸福度（Better Life Index）は、36か国中21位という。（高井光子）